

35歳以下の若手画家を顕彰し、具象絵画の可能性拡大を目的に掲げる「絹谷幸二賞」の第5回受賞者が決まり、主催者である毎日新聞社よりの発表された。本賞である絹谷幸二賞には橋爪彩氏（1980年12月東京都生まれ、32歳）、同奨励賞には今津景氏（1980年4月、山口県生まれ、32歳）、ともに女性画家が、昨年に引き続き選出された。受賞者には賞状と賞金（本賞に100万円、奨励賞に50万円）が贈られる。賞の贈呈式は3月13日、東京千代田区神田の学士会館で行われる。

2年連続で受賞は女性画家2人

主催者発表によれば、人から推薦の候補者23人（複数推薦2人）があった。3人の選考委員のポ
 ートフォリオ審査や作品の画家であること、同年、国内で開催の公の展覧会に発表した作品群の成果
 Ⅱ展覧会の成果が授賞の対象。国籍は問わない。選考委員は昨年度の第4回から山下裕二・明治学
 院大学教授、O JUN・東京藝術大学准教授、原久子・大阪電気通信大学
 教授の3氏が務める。

その選考は同新聞社が全国の美術館学芸員や評論家、ジャーナリストらに推薦を依頼。今回は25
 choose where we die」展「sometimes we can't
 ヤラリー」。

橋爪彩氏 決まる 今津景氏

第5回 絹谷幸二賞に 同奨励賞に

具象絵画
 35歳以下の
 有望新人



絹谷幸二賞
 橋爪彩氏（毎日新聞社提供）



橋爪彩「Floral」2011年 パネルに白亜地・油彩 149.5x125 高橋「レクニ」蔵 ©Sai HASHIZUME, courtesy of imura art gallery



同奨励賞
 今津景氏（毎日新聞社提供）



今津景「Olive, Gray, Yellow」2012年 145.5×89.4cm×3 oil on canvas ©Kei IMAZU

会員として幅広い活動を展開する絹谷幸二氏が、2008年「これからの若い画家を励まし育てたい」との発願で毎日新聞社に提案、その意志を受けて同新聞社が主催者として創設したものだ。今回は第5回となる節目の決定だが、昨年の第4回から連続して女性画家2人の受賞となった。

絹谷氏はかつて洋画壇の登竜門である安井賞を31歳の若さで受賞（1974年、第17回）、その受賞は後の画業の大きな励みになった。その自らの体験が絹谷幸二賞の元にある。絹谷氏が資金を提供（ただし審査等には一切ノータッチ、毎日新聞社が主催し、協賛に三井物産が加わる。

第5回絹谷幸二賞の推薦作家は以下の通り。（受賞者2人を含む）

浅井裕介、池田陽一、今津景、岡田真希人、梶岡俊幸、北村佳奈、黒木南々子、幸田千依、児玉美咲、近藤亜樹、五月女哲平、田中武、中田朝乃、新田友美、橋爪彩、服部しほり、服部知佳、廣田美乃、増田佳江、松井えり菜、村山春菜、森田加奈子、和田典子。

（五十音順・敬称略）

同氏は、03年東京藝術大学美術学部絵画専攻油画科卒業。06年同大修士課程絵画専攻（油画）修了。現在、東京都に在住。受賞歴として04年シェル美術賞で岡部あのみ審査員奨励賞。近年の主な展覧会歴に、11年個展「イムラアートギヤラリー」東京）、13年グループ展「DOMANI・明日2013」（東京・国立新美術館）がある。

奨励賞を受けた今津景氏の授賞対象は、12年7〜8月の個展「SHINING REPLACE」（東京・第一生命南ギャラリー）。同氏は07年多摩美術大学大学院美術研究科修了。現在、神奈川県に在住。受賞歴に、09年VOCA展佳作賞。主な展覧会歴に、10年個展（東京・山本現代）、11年個展（アートフェア東京、山本現代）、12年グループ展「Painting Never Dies」（東京・YUKA・T'S URUNO）などがある。同賞は現代日本を代表する画家のひとりで日本藝術院会員・独立美術協